

## ⑫ 公開特許公報 (A) 平3-61181

⑮ Int. Cl. 5

B 62 D 25/12  
25/08

識別記号

府内整理番号

⑯ 公開 平成3年(1991)3月15日

B 7816-3D  
H 7816-3D

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑭ 発明の名称 車両のフード構造

⑮ 特 願 平1-198310

⑯ 出 願 平1(1989)7月31日

⑰ 発明者 梅下 隆一 広島県安芸郡府中町新地3番1号 マツダ株式会社内  
 ⑰ 発明者 倉本 英介 広島県安芸郡府中町新地3番1号 マツダ株式会社内  
 ⑰ 発明者 横山 繁治 広島県安芸郡府中町新地3番1号 マツダ株式会社内  
 ⑰ 出願人 マツダ株式会社 広島県安芸郡府中町新地3番1号  
 ⑰ 代理人 弁理士 柳田 征史 外1名

## 明細書

## 1. 発明の名称

車両のフード構造

## 2. 特許請求の範囲

樹脂製フードと該樹脂製フードを車体に対して回動可能に支持するヒンジとを備え、該ヒンジの車体側ヒンジブラケットが前記車体のカウルアッパバネル上面に上方から取付けられていることを特徴とする車両のフード構造。

## 3. 発明の詳細な説明

## (産業上の利用分野)

本発明は、樹脂製フードが取付けられてなる車両のフード構造に関するものである。

## (従来の技術)

近年、車体の軽量化の要請から実開昭60-165267号公報に示されているように鐵板製のフードにかわって樹脂製フードを採用したものが普及している。

従来、鐵板製のフードを有する車体においては、製造工程上カウルサイド部等にフードを取付けた後、このフード取付部分の側部にフェンダを取り付け、フェンダとフードとの位置関係を適正に保つためにフェンダの位置を車幅方向に調整し、これらの工程の後ボディおよびフードを一体的に塗装する方法がとられていた。

## (発明が解決しようとする課題)

しかし、樹脂製フードを配設した車体においては、フードをボディに取付けた後にボディに塗装を施すことは塗装方法の都合上不可能である。こ

のためフードより先にフェンダを取り付けて塗装した後、樹脂製フードを組付ける取付け方法を取らざるを得ない。

このようにフードをボディの塗装工程の後に取付ける方法では、フェンダと樹脂製フードとの位置調整をフェンダ取付時にフェンダ側で行うことは不可能であり、樹脂製フード取付け時に車幅方向にずらして取付位置を調整する必要があり、また、フードの取付けスペース的にも合理的な取付構造をとる必要がある。

本発明は前述したような要望に応え、簡単かつ合理的に樹脂製フードを塗装後のボディに取付けることが可能な車両のフード構造の提供を目的とする。

#### (課題を解決するための手段)

本発明の車両のフード構造は、樹脂製フードと該樹脂製フードを車体に対して回動可能に支持するヒンジとを備え、該ヒンジの車体側ヒンジプラケットが前記車体のカウルアッパバネル上面に上方から取付けられていることを特徴とする。

- 3 -

パネルが結合されてエンジンルーム（図示せず）の後端が形成されており、樹脂製フード2がヒンジ3を介して回動可能に取付けられている。このヒンジ3は、車幅方向に延長された形状でカウルアッパバネル8a上にナット締めされ車体に固定された車体側ヒンジプラケット4と、この車体側ヒンジプラケット4の車幅方向外側に支点6を介して後端5aが取付けられ、車体前後方向に延長されてなるフード側ヒンジプラケット5とからなる。このフード側ヒンジプラケット5は車体前後方向に弧を描いて回動可能に支持されており、このフード側ヒンジプラケット5の上面にフード2の下面が孔部5bを介してナット締めされることにより、カウルアッパバネル8a上にフード2が回動可能に支持されるものである。

このフード2の車体ボディへの組付け時には、あらかじめフェンダパネル9を取付け、塗装を施した後にフード2を取付ける方法がとられる。すなわち、フード側ヒンジプラケット5と、車体側ヒンジプラケット4とが一体的に連結されたヒン

#### (実施例)

以下、図面を用いて本発明の実施例を説明する。第1図に示す車体1の前方側の樹脂製フード2は、一般的なフード構造と略同様にエンジンルームを覆って配設され、車体後方側縫合部2aで車体1のボディに取付けられており、この取付側を中心としてエンジンルーム開放方向に回動可能にヒンジ3により支持されている。

第2図、第2図をⅢ-Ⅲ線に沿って切断した方向よりみた第3図、第2図をⅣ-Ⅳ線に沿って切断した方向よりみた第4図に示すように、フード2を支持するヒンジ3は、車体の固定される車体側ヒンジプラケット4とフード2の下面に固定されるフード側ヒンジプラケット5とが支点6を中心回動可能に連結されてなる。すなわち、フード2の取付け部分であるフロントガラス下端7配設部分の車体ボディの構造はカウルアッパバネル8a、カウルフロントバネル8b、カウルサイドアッパインナ8c、ダッシュアッパバネル8d、カウルサイドアッパアウタ8e、カウルサイドバネル8fの各

- 4 -

ジ3のフード側ヒンジプラケット5が、縫合部の複数ヶ所にナット締めされてなるフード2をエンジンルームを覆う閉鎖位置の状態で位置決めし、カウルアッパバネル8a配設部分のフロントガラス7との車幅方向のスペースを利用して車体側ヒンジプラケット4をカウルアッパバネル8a上にナット11により固定する。

なお前述したフード側ヒンジプラケット5の孔部5aにボルト係合されるフード側の孔部を車幅方向に梢円形をなす長孔形状としておくことでプラケットのフード2の支持位置を車幅方向の位置調整をスムーズに行うことができる。

また本実施例のようにカウルアッパバネル上面にヒンジ3を取付けることにより、前記ヒンジ3の配設部分の外観を向上させるためにガーニッシュ10を2点縫合で示す位置に配設しヒンジ3配設部分を被覆することが可能である。

また第5図に示すヒンジ20のようにフード側ヒンジプラケット22と車体側ヒンジプラケット23が併に車体前後方向に延長されて形成され、回動点

- 5 -

- 6 -

21を中心にはね回動する部材において、車体側  
ヒンジプラケット23の車体取付位置を後方にずら  
しフード3の外縁より後方に車体側ヒンジプラケ  
ット23のボトル係合孔24bを設け、この係合孔24  
bを、フードを閉鎖位置の状態で位置決めした後  
ボルト締めし、さらにこの係合孔24bより前方の  
係合孔24aをフード開放状態でボルト締めするよ  
うにしても良い。

### (発明の効果)

本発明のフード構造は樹脂製フードを回動可能に支持する車体側ヒンジプラケットをカウルアッパネルに上方から取付けてなるため、カウルアッパネルとフードとの隙間を効果的に利用して、フードの取付けを行うことができる。すなわち樹脂製フードはフェンダ取付け後ボディの塗装工程より後に取付けを行う必要があるが、本発明の構造においてはフェンダが取付けられた後カウルアッパネル上にフードを取付けることがスペース的に可能であり、フード組付け時にフード閉鎖状態のまま取付け部においてフードの位置調整を行

うことも可能であり、簡略な方法で効果的な取付けを行うことができる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は車両のフード構造の一例を示す斜視図、

第2図は本発明のフード構造の一実施例の要部を示す斜視図、

第3図は第2図をⅢ-Ⅲ線に沿って切断した方向からみた断面図、

第4図は第2図をIV-IV線に沿って切断した方向からみた断面図。

第5図は異なる実施例を示す斜視図である。

2 ... 樹脂製フード

3 ... ヒンジ

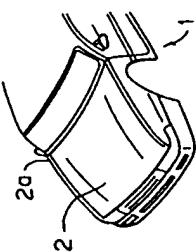
#### 4 …車体側ヒンジブラケット

8a… カウルアッパバネル

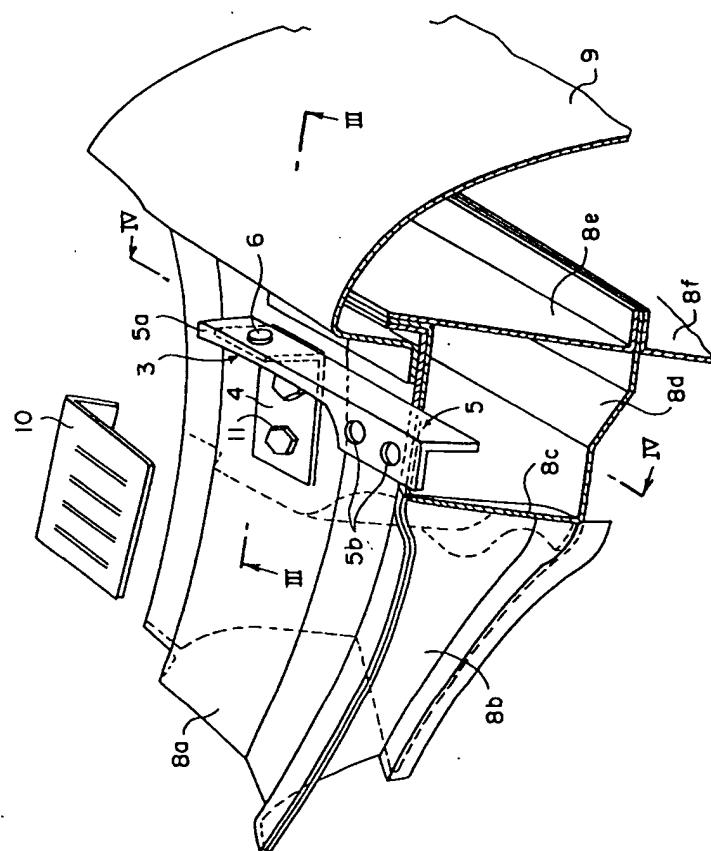
- 7 -

- 8 -

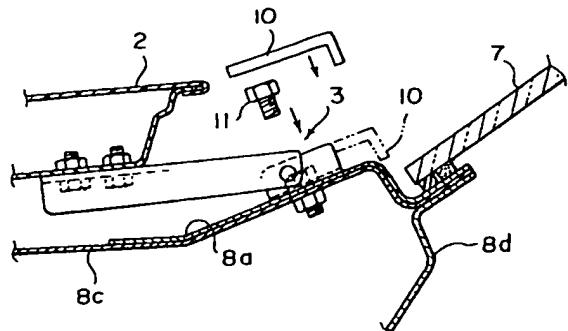
四



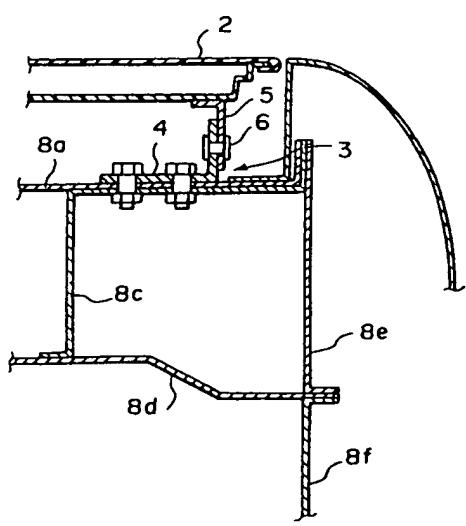
第2回



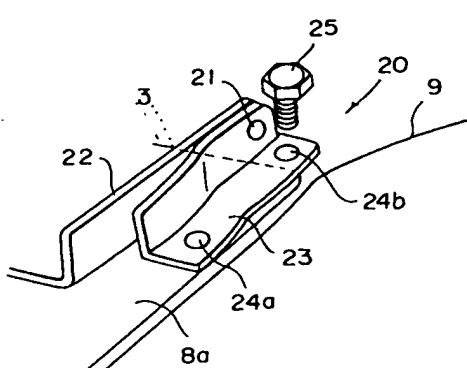
第 4 図



第 3 図



第 5 図



CLIPPEDIMAGE= JP403061181A

PAT-NO: JP403061181A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 03061181 A

TITLE: HOOD STRUCTURE FOR VEHICLE

PUBN-DATE: March 15, 1991

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

UMESHITA, RIYUUCHI

KURAMOTO, EISUKE

YOKOYAMA, SHIGEJI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

MAZDA MOTOR CORP

COUNTRY

N/A

APPL-NO: JP01198310

APPL-DATE: July 31, 1989

INT-CL (IPC): B62D025/12;B62D025/08

US-CL-CURRENT: 180/69.21

ABSTRACT:

PURPOSE: To simplify the fitting by providing a hinge on a resin-made hood, and fitting a body side hinge bracket of the hinge on the upper surface of a cowl upper panel from an upper side.

CONSTITUTION: A hinge 3 having a body side hinge bracket 4 and a hood side hinge bracket 5 is fitted to a hood 2 with the hood side hinge bracket 5. On the other hand, the body side hinge bracket 4 is fitted to a cowl upper panel 8a from an upper side. This enables the hood 2 to be pivotally fitted with a supporting point 6 as the center.

This constitution  
facilitates the fitting.

COPYRIGHT: (C)1991, JPO&Japio